

事業所名

多機能型事業所 ほのぼのplus+

支援プログラム

作成日

7年

3月

16日

法人（事業所）理念		<p>・法人理念 『人とともに。』 私たちは何よりも「人」大切にします。 人と向き合い、人に寄り添いご利用者、職員、地域の方々、関わる全ての方のしあわせを追求します。</p> <p>・事業所理念 『通ってみたい・通ってよかった事業所』 療育のハードルを下げ、最初の一步を踏み出せるよう後押しをし、利用児の将来的なQOL向上を目指した支援を行います。</p>						
支援方針		<p>①刺激を調整した環境づくり 子どもたちが落ち着いて過ごせるよう、刺激を適切にコントロールし、集中しやすい環境を整えます。</p> <p>②多角的な支援の実施 最新機器と多職種によるアセスメントを行い、効果的な計画・活動につなげます。</p> <p>③情報の「見える化」 デジタル機器を活用し、保護者の負担を軽減しながら、わかりやすい情報共有を行います。</p> <p>④地域との連携 家庭の課題だけでなく、地域の課題にも向き合い、地元の社会福祉法人として解決に尽力します。</p>						
営業時間		9時	0分	17時	0分	送迎実施の有無	あり	なし
		支援内容						
本人支援	健康・生活	<p>①健康状態の維持・改善 到着時の検温や視診、活動中の観察を徹底し、健康状態の維持や心身の異変の早期発見に努めます。 職員と一緒に自身の体調についての理解を深め、適切な伝え方や対処を知らせます。</p> <p>②生活リズムの形成 必要に合わせ定時での排泄誘導、口腔機能向上のためのマッサージ、飲水、おやつを利用した摂食支援を行います。</p> <p>③基本的な生活スキルの獲得 身辺整理、食事動作、配膳等の生活動作を来所時やおやつやクッキングの場面を活用して練習していきます。特性に配慮した視覚支援や環境の構造化を行います。</p>						
	運動・感覚	<p>①姿勢と運動・動作の向上・身体感覚の理解：サーキットやバランスボードを使用した感覚統合的な遊びを通して周囲の環境に合わせた姿勢、運動を促す。 その基礎となる柔軟性や自身の身体感覚の理解の促しも同時に行っていく。</p> <p>②環境設定による姿勢の保持 机や椅子の高さ調整、必要に応じた足台などの補助装置の使用し、各児の感覚に応じて配慮します。</p> <p>③感覚の充足と集中力の向上 着座での集中を要する活動の前に、サーキットや感覚刺激遊びを取り入れ、感覚の充足による集中力の向上を図ります。</p> <p>④手と目の協応・指先の巧緻性の向上 具体物を操作する遊びやビジョントレーニングを通じて、自己訂正を促しながらスキルを向上させます。</p> <p>⑤自身の感覚の理解 本人の感覚（過敏や鈍麻）に対する理解を深め、QOL向上に向けた方法を一緒に考えます。</p>						
	認知・行動	<p>①認知の発達と行動の習得 マッチング課題、構成課題、触覚遊びなどを通じて、概念理解や認知機能の向上を促します。</p> <p>②空間・時間、数などの概念形成 発達段階に応じた数や時計、時間の課題を提示し、具体物から抽象的思考へ移行できるよう支援します。</p> <p>③適切な認知と行動の習得 トランジションやスケジュールボードを活用し、活動の視覚化、構造化を行い、自ら適切な行動に移せるように促します。 また、ABA（応用行動分析）を取り入れ、感覚や認知の偏りに対するリフレーミングを行います。</p>						

本人支援	言語 コミュニケーション	<p>①言語の形成と活用 具体物の名詞から学び始め、動詞や形容詞についても、絵本の読み聞かせなどを通じて多様な言葉に触れる機会を提供します。 遊びを通して、子どもが自発的に要求や感じたことを言葉で表現できるように促し、言葉と体験を結びつけます。</p> <p>②注目のコントロールの向上 注目・追視・動作模倣・共同注視などのスキルを伸ばします。 指導員との適切な関係のもと、必要に応じ1対1でのやり取りを行い、注目の向上を促します。</p> <p>③表出の促し 言語・非言語を問わず、それぞれの子どもにとって伝えやすい適切なコミュニケーション手段を模索します。 多様なコミュニケーション手段を活用し、円滑な意思表示を支援します。</p> <p>④言語表現の促し 構音訓練や口腔内マッサージ、口の体操を取り入れ、発音や発話のスキル向上を目指します。 語彙を増やし、文章表現の経験を積むことで、言葉によるコミュニケーション力を育みます。</p>	
	人間関係 社会性	<p>①基礎的信頼関係の形成 安定したアタッチメントを形成するために、ふれあい遊びや手遊び歌を取り入れます。指導員や異年齢児を含めた自由遊びの場を提供し、人の動きを模倣する力を育みます。</p> <p>②自己の理解と行動の調整 事前にSST（ソーシャルスキルトレーニング）を通じたロールプレイを行い、活動後には振り返りの時間を設けて自己理解を深めます。 トークンシステムの導入などを活用し、自己コントロールの力を伸ばします。</p> <p>③段階的な遊びの拡張 一人遊び、並行遊び、連合的な遊び、見立やごっこ遊び等それぞれの段階に配慮しながら、次の段階の遊びへと広がり促します。</p> <p>④ルールを意識した活動 役割分担のある活動や、明確なルールのある遊びを通じて、集団の中でのルールの理解と受け入れを促します</p> <p>⑤集団や社会への参加 小集団での活動を通して、適切な行動や暗黙のルールを学び、実践する機会を提供します。外出活動などを通じて、公共の場での適切な行動を学び、実践できる機会を設けます</p>	
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達状況や特性の理解に向けた相談援助 子育ての困りごとへの相談援助 定期的なペアレントトレーニングのワークショップの開催 	移行支援	<ul style="list-style-type: none"> 進路先や移行先への相談援助や情報提供 併用利用先や園・学校との相互見学や情報共有、支援のすり合わせを行う。
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 園や学校、併用事業所との支援方法等についての情報共有、相談援助 相談支援事業所との連携 医療機関との情報連携や調整 地域の社会福祉協議会や民生委員との連携 	職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 強度行動障害支援者養成研修への職員の派遣 虐待防止・身体拘束、人権問題などの内部研修の実施 専門性向上のための法人内外の研修への参加
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> 各季節の行事に合わせた活動の提供（節分・七夕・ハロウィン・クリスマス等） 祝日による連休や長期休みが存在する月での親子イベント 		